

目次

回顧と展望

湯川秀樹

1	日本に帰りて	三
2	真理への道	四
3	核力の場と中間子	八
4	非局所場理論へ	二〇
5	若い世代への期待	二四

中間子理論研究の回顧

坂田昌一

1	日本の原子核物理学	三
2	大阪大学理学部湯川研究室	三三

3	仁科博士の特別講義	三
4	原子から原子核へ	元
5	原子核理論の初期	四
6	中性子の発見	四
7	中間子仮説の登場	四
8	ベックの来朝	五
9	武谷三男博士の「三段階論」	毛
10	中間子の発見	六
11	大阪時代の末期	六
12	京都時代のはじまり	六
13	二中間子理論	充
14	戦後の発展	七

素粒子論グループの形成

——私の目で見たと——

武谷三男

1	素粒子論グループ	八
---	----------	---

2	先達——長岡、石原、仁科の三博士	三三
3	新しい領域、疑問にみちた原子核	三六
4	私が学生のころの京大物理教室	三七
5	仁科研究室と大阪大学と、両研究室の発足	三六
6	湯川理論の発端と科学論	三〇
7	中間子が発見されるまで	三三
8	三人の協力、中間子理論の建設	三三
9	中間子理論の精力的な展開、特高警察による検挙	三二
10	実験家として、病、岩波風樹会	三二
11	理研仁科研究室の一員となって	三二
12	中性中間子の分析（京大の人の話）	三六
13	二中間子論の誕生（ ）	三七
14	場の理論、ベータ崩壊（ ）	三六
15	原子爆弾の研究、再度特高に検挙さる	三六
16	敗戦、素粒子論の復活、凝集中間子論	三六
17	実験による確証、二中間子論の急追	三六

18	日本の実験の復活、東大から疎開、中性中間子の証明	二〇三
19	戦時中の東大研究室（東大の人の話）	二〇七
20	敗戦、新しい出発（ ）	二一一
21	凝集中間子論の検討（ ）	二一七
22	朝永理論の展開（ ）	二二〇
23	二中間子論の展開（ ）	二二五
24	研究連絡の努力（ ）	二三三
25	最近の成果（ ）	二三六
26	結語	二三九

戦後の発展を語る

湯川秀樹
坂田昌一
武谷三男
小川修三
藤本陽一

1	ノーベル賞受賞直後のこと	二四三
2	新粒子の発見	二四四
3	研究の環境	二五二
4	素粒子論グループの戦後の出発	二五五

5	中間子論の発展	二五九
6	くりこみ理論と中間子論	二六四
7	非局所場の理論	二六八
8	湯川記念館の設立	二七二
9	湯川博士、原子力委員に	二七六
10	国際会議(一九五三年)以後	二八〇
11	パリティ非保存則	二八三
12	坂田模型	二八八
13	基研の共同研究	二九五
14	最近の研究	三〇〇
15	原子核将来計画	三〇三
16	わが素粒子論グループの勤務評定	三〇六
	素粒子論研究年表	1